



JICA 国別研修「ブルキナファソ基礎教育課程における教育システム能力強化」を行います —埼玉大学、埼玉県、さいたま市の3者が共同で実施—

概要

本年9月20日より10月7日まで、ブルキナファソから教育関係者を日本に招き、「ブルキナファソ基礎教育課程における教育システム能力強化」研修が行われます。同研修は国際協力機構（JICA）の技術協力スキーム（国別研修）として行われるものですが、研修期間のうち9月26日より10月7日までは、埼玉大学、埼玉県及びさいたま市の3者が共同で実施します。

本研修は、昨年度を初年度とする2017年度までの3年計画となっており、毎年度秋に10名程度の研修員をブルキナファソ側から招きます。2年度目となる今年度はブルキナファソ教育省（国民教育・識字省（MENA））及び教員養成校（ENEP）2校から総局長、校長等の準高級研修5名を含む10名が参加します。

埼玉においては、日本の教員養成・研修の仕組み、教育実習等、教員養成上の様々な取り組みを学んでいただきます。

1. 研修を行う背景

ブルキナファソは、サハラ砂漠の「周縁」を意味するサヘル地域に位置する西アフリカの内陸国で、周囲をコートジボワール、ガーナ、トーゴ、ベナン、ニジェール、マリに囲まれています。面積は27万k㎡、人口は約1,759万人（2014年）です。1日1.25ドル未満で生活する絶対的貧困層の割合が依然44%に達するなど深刻な貧困問題を抱えており、初等教育における純就学率も近年急速に改善しているものの、まだ67.9%（2013年）に留まるなど、基礎教育の強化が当面の最重要課題となっています。

他方ブルキナファソの国名が「高潔な人々の国」を意味するように、貧しくとも温和で勤勉な国民性を有しています。

日本政府は近年アフリカに対し、アフリカ開発会議（TICAD）を定期的に主催するなど（今年は8月にアフリカで初めてのTICAD会議をケニア・ナイロビで開催）、積極的に支援を展開していますが、教育支援はその重要な柱となっています。

ブルキナファソに対しても、1990年代以降JICAが無償資金協力により小学校建設、教員養成校建設、技術協力で初等教育・理数科現職教員研修改善計画や学校運営委員会支援プロジェクトを実施、併せて青年海外協力隊員による基礎教育支援を行ってきており、西アフリカにおける日本教育支援のショーウィンドーの1つとしても役割も果たしつつあります。

こうした中、同分野支援のさらなる強化を目指して、今年度より技術協力プロジェクトにより「教員養成能力強化プロジェクト」が現地で実施されることとなり、日本における国別研修である本研修とタイアップして行うこととなりました。

2. 研修の内容

本研修がブルキナファソの教員養成制度強化を目的としていることから、埼玉大学教育学部で日本の教育全般及び教員養成制度と取り組みについて解説し、併せて埼玉県教育委員会（埼玉県立総合教育センター）及びさいたま市教育委員会において、県と市のレベルでの教員研修等の取組みを解説します。

また学校の現場視察として、埼玉大学付属小学校、行田市立南河原小学校、さいたま市立大宮八幡中学校の3つの小中学校を見学し、授業・教育実習見学、全体集会での教員・生徒との交流、学校給食の体験、生徒による掃除見学等も行う予定です。

3. 研修事業について

本研修プログラムは、埼玉大学、埼玉県、さいたま市の3者が連携してJICAの国際協力事業を「オール埼玉」でバックアップするものです。今回の研修事業が実現することとなったベースとして、埼玉大学とJICA間の連携協定の存在、埼玉県教育委員会がJICA地球ひろばにたいし、学校教育アドバイザーとして教員を長期派遣していること、また2012～2014年度の3年間に「ハイチ教育復興開発セミナー」を埼玉大学、埼玉県、さいたま市の共同で実施した実績があることも理由としてあげられます。

今後もこの埼玉において、こうした国際協力がさらに展開できるよう関係者一同務めてまいりたいと考えております。

お問い合わせ

埼玉大学国際開発教育研究センター教授 飯島 聡

TEL 048-858-3782

E-mail: ijjima@mail.saitama-u.ac.jp

埼玉大学教育学部教授 宇田和子

TEL 048-858-3632

E-mail: k-uda@brown.plala.or.jp